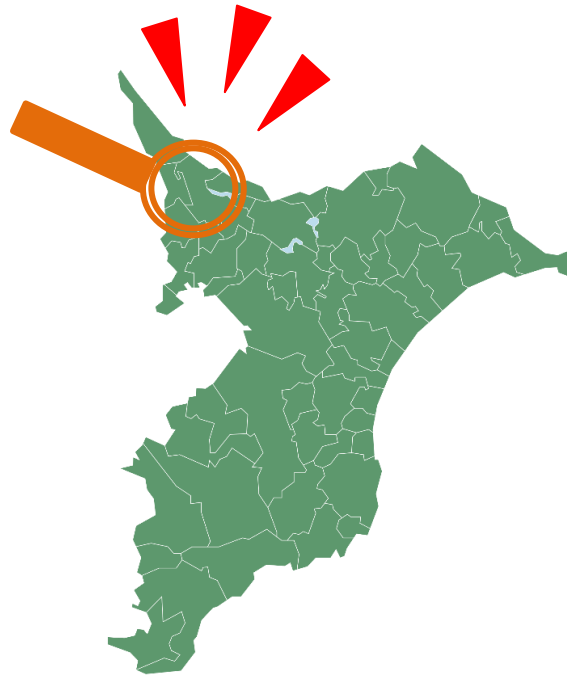


2023・11

柏の景気情報

令和5（2023）年11月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年11月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

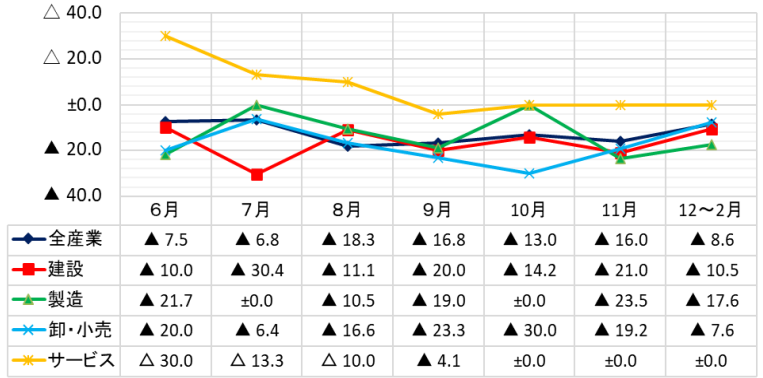
回答期間:令和5年11月27日～令和5年12月5日 調査対象: 柏市内175業所及び組合にヒアリング、回答数81

エネルギー価格の高騰や最低賃金の上昇でコスト増は継続するも、見合った十分な価格転嫁が行えず…

11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲13.0)となりマイナス幅が3.0ポイント拡大した。

先月までは暖冬によってシーズン物の売上が伸び悩んでいた卸小売業はDI値が改善傾向。さらには本格的な冬シーズン突入・年末年始商戦に期待の声が高まる。製造業では、受注数は増加しつつも円安による輸入コスト増により収益圧迫、結果的に売上上昇・利益率悪化といった声も聞かれた。電気代や原材料高騰のコスト増による価格転嫁の苦慮については業種を問わず多くのコメントが寄せられた。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「資材価格の高騰で住宅の着工が弱い」(建築工事) 「お正月を新しい畳で迎えたいという一般のお客様の注文増加」(畳工事請負・畳製造販売) 「仕入やエネルギー価格の高騰、最低賃金のアップに対して、値上げ交渉中にも既にその価格では難しくなっている」(土木工事) 「大手企業では人手不足に対して賃上げなどで対策しているが、中小企業では中途・新卒採用ともに厳しい状況」(電気工事)



製造業

「一時期の値上げラッシュは落ち着く傾向にあるもののエネルギー原材料等が高止まりしており値上げの圧力は続くと思われる」(機械部品製造) 「インボイス対応で紙領収書保存をするために時間を労している。紙資源を削減することを社内環境目標としているのに逆行している」(金属製品) 「エネルギー等のコスト増に伴う一部価格転嫁で利益を確保し、社内での工場経費削減も実施。生産性向上に伴う設備投資はコスト増でも必須で継続」(その他の品質保持剤等の製造)



卸・小売業

「気温が下がり、鍋料理用の野菜の需要が増加している」(飲食料品小売) 「前半は、気温が高くアパレルは防寒を中心に苦戦するも、後半は気温の低下と会員向けセールが寄与し回復傾向。食物販・サービス関連は好調継続」(百貨店) 「販売価格を上げると一層の顧客離れにつながってしまうため、踏み切ることが出来ず悩ましい」(食料卸売) 「仕入値・売値どちらも高止まり。年末商戦に期待」(その他の各種商品小売)



サービス業

「原材料費の高騰、時給の上昇による経営圧迫が続いている」(日本料理) 「人手不足が深刻。ただし、誰でも良いとはいかず悩みどころ」(ソフトウェア) 「状況は急激に悪化し12月までは我慢、年明けに期待。海外旅行は徐々に復活の兆しが感じられる」(旅行) 「周辺道路が今後整備されるにつれて、車や人の流れも変わりそう」(不動産賃貸・管理) 「大学入試の約半分が推薦入試で決まってしまう、大半が退会してしまうため、冬期講習を含めた売上の落ち込みが心配」(学習塾)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲9.7で、柏のほうがマイナス幅が6.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はなし。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設、製造、卸小売業、サービス業で全業種である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.0	 ▲ 21.0	 ▲ 23.5	 ▲ 19.2	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 9.7	 ▲ 11.7	 ▲ 10.2	 ▲ 18.7	 0.2
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.2	 ▲ 5.2	 ▲ 11.7	 ▲ 3.8	 26.3
CCI-LOBO	 4.2	 ▲ 2.9	 5.8	 ▲ 4.2	 12.9
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.0	 ▲ 15.7	 ±0.0	 ▲ 34.6	 ▲ 5.2
CCI-LOBO	 ▲ 12.0	 ▲ 14.9	 ▲ 11.2	 ▲ 18.7	 ▲ 5.1
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 62.9	 ▲ 42.1	 ▲ 70.5	 ▲ 73.0	 ▲ 63.1
CCI-LOBO	 ▲ 66.8	 ▲ 72.8	 ▲ 64.5	 ▲ 72.2	 ▲ 62.6
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.7	 31.5	 11.7	 11.5	 26.3
CCI-LOBO	 24.6	 37.5	 15.8	 20.6	 30.9
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.2	 ±0.0	 17.6	 ▲ 7.6	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.7	 ▲ 6.1	 ▲ 13.4	 ▲ 17.9	 ▲ 9.5

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (11月速報)

調査期間：2023年11月14日～20日

調査対象：全国の328商工会議所が2,474企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、物価高と人手不足で一進一退。
先行きは、不透明感拭えず、慎重な見方続く

11月の全産業合計の業況DIは、▲9.7と前月比から△0.8ポイントの改善。

建設業は、受注が堅調な公共工事が下支えし、改善した。卸売業は、飲食・宿泊業からの飲食関連の引き合いが増加し、改善した。製造業は、自動車関連が好調な一方、円安による輸入部材の高騰で横ばいにとどまり、サービス業は、飲食・宿泊業で客足が回復基調にあるものの、エネルギー価格の高騰等によるコスト増で力強さを欠いている。また、小売業は、物価高による買い控えが継続し、悪化となった。

原材料価格やエネルギー価格の高騰に加え、人手不足に伴う人件費の上昇等、コスト負担は増加が続いている。

コストに見合う十分な価格転嫁が行えていない中、深刻な人手不足も続いており、中小企業の業況は足踏みが続いている。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業と小売業は改善し、製造業、サービス業は悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

「公共工事の受注が増えていることに加え、新規取引先の開拓を行ったことで、足元の売上は改善している。一方で、建設資材は輸入品が多いため、円安の伸長により負担するコストが増加しており、採算は悪化している」(大工事業)

「働き方改革の施行に向けて週休2日制導入等の環境整備を行ったが、工期の長期化が見込まれるため、顧客への理解促進が課題である」(一般工事業)

【製造業】

「挽回生産が進んでいることもあり、受注数も増加している。一方で、原材料や仕入れ品の価格が高止まりする中、円安による輸入コストも増加している。価格転嫁に向けた交渉は行っているが、すでに一度値上げした製品を再び価格交渉することは厳しい状況である」(輸送用機器製造業)

「人の動きが活発になり、土産店や飲食店からの受注は増えて売上は上昇しているが、輸送費や電気代の高騰で利益率は悪化している」(酒類製造業)

【卸売業】

「顧客の飲食店や旅館などの客足の回復で、引き合いは増加傾向が続いている。材料価格の値上がりが続いているため、ロットを上げて単価を下げる取引先が増えてきているが、先行きが見通せない状況となっている」(食料・飲料卸売業)

「欧州や中国市場の停滞に伴い、必需品以外の受注数の減少に加え、低価格製品への移行が顕著で、利益が減少している」(繊維品卸売業)

【小売業】

「物価高の影響で消費者の購買意欲が引き続き低調であり、売上が伸びていない。加えて、電気代の高騰に伴うコスト負担増が大きい中、販売価格を上げてしまうと一層の買い控えにつながってしまうため、価格転嫁もできない状況である」(総合スーパー)

「物価高・電気代の高騰で消費者の買い控えが続く中、嗜好性が高い生花の需要が減少しており、売上確保が難しい」(生花小売業)

【サービス業】

「インバウンド需要が増加しており、客室稼働率も良好。より多くの宿泊客確保に向けて補助金を活用して改修工事も行っている。一方で、エネルギー価格の高騰による収益圧迫や、需要増に対応するための人材確保など、対応すべき課題

は山積している」(宿泊業)

「同窓会や法人宴会など大人数での宴会需要が多くなり、コロナ前の8割まで売上が回復。忘年会の予約も入ってきており、先行きに期待する」(飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

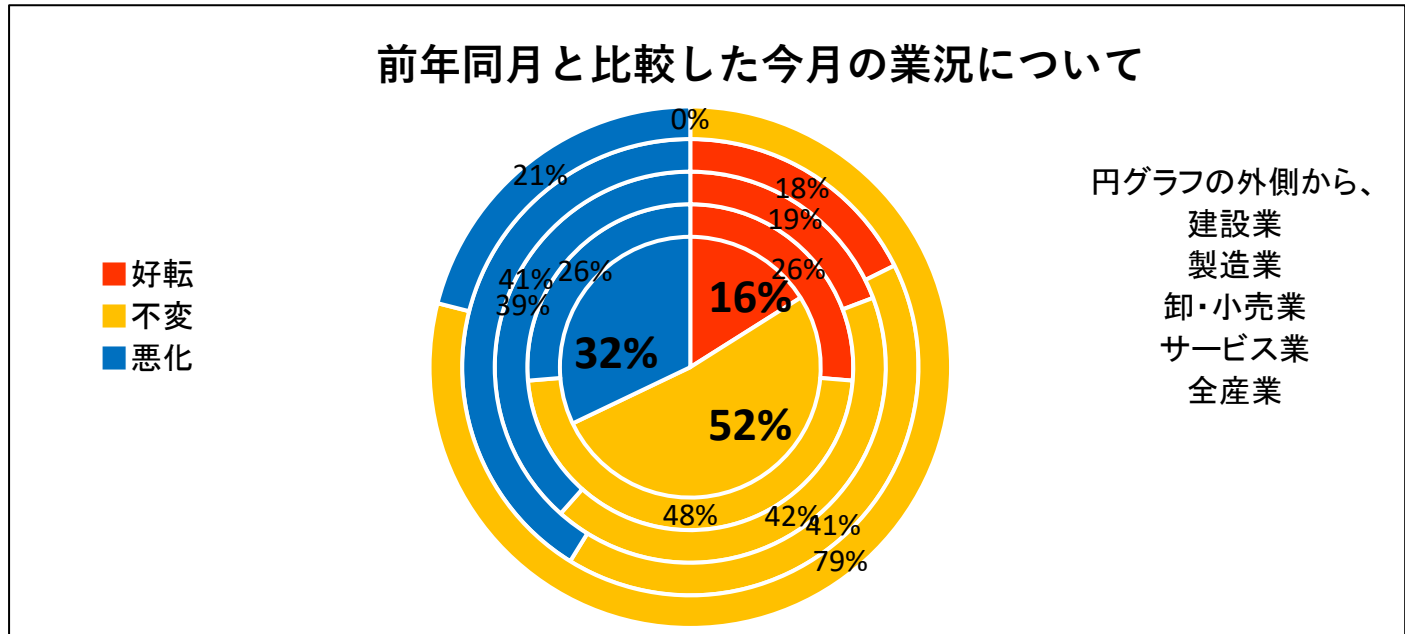
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲ 8.9	▲ 17.8	▲ 8.8	▲ 13.2	▲ 16.7	△ 4.7
7月	▲ 9.8	▲ 19.2	▲ 4.1	▲ 20.9	▲ 18.5	△ 2.4
8月	▲ 8.9	▲ 18.8	▲ 5.6	▲ 22.6	▲ 12.7	△ 3.4
9月	▲ 9.0	▲ 16.5	▲ 8.5	▲ 19.7	▲ 9.2	△ 0.2
10月	▲ 10.5	▲ 14.3	▲ 9.3	▲ 20.6	▲ 16.0	△ 0.0
11月	▲ 9.7	▲ 11.7	▲ 10.2	▲ 12.0	▲ 18.7	△ 0.2
見通し	▲ 13.6	▲ 14.9	▲ 12.4	▲ 16.1	▲ 18.7	▲ 8.9

令和5年（2023年）11月の動向

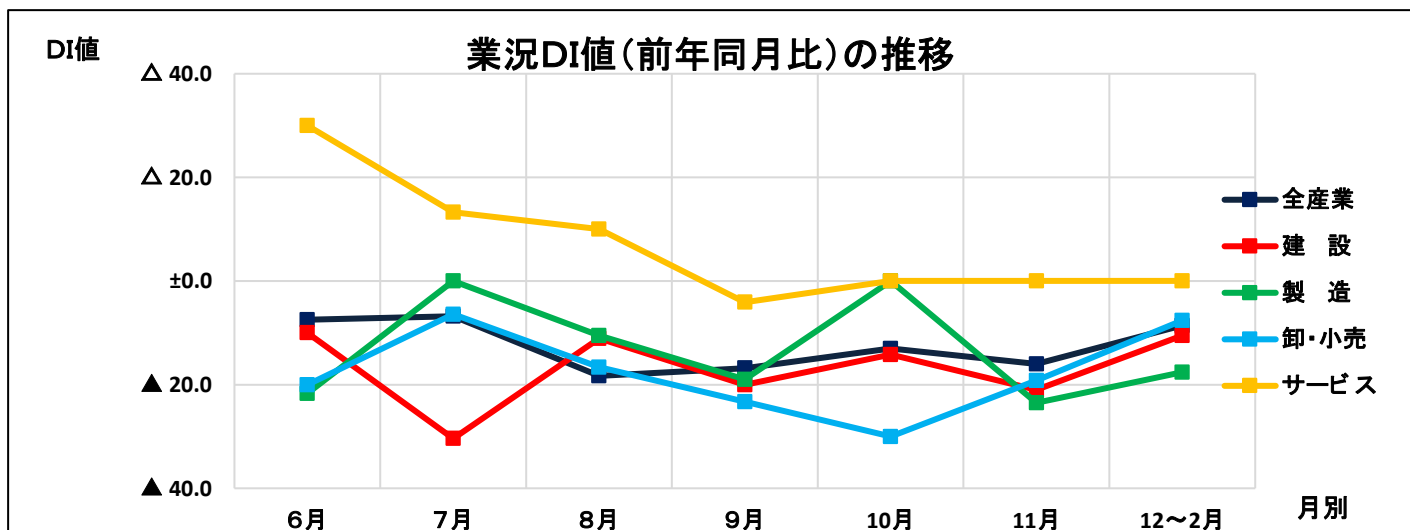
【業況について】

- 11月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.0（前月水準▲13.0）となり、マイナス幅が3.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、▲8.6（前月水準▲5.4）となり、マイナス幅が3.2ポイント拡大した。



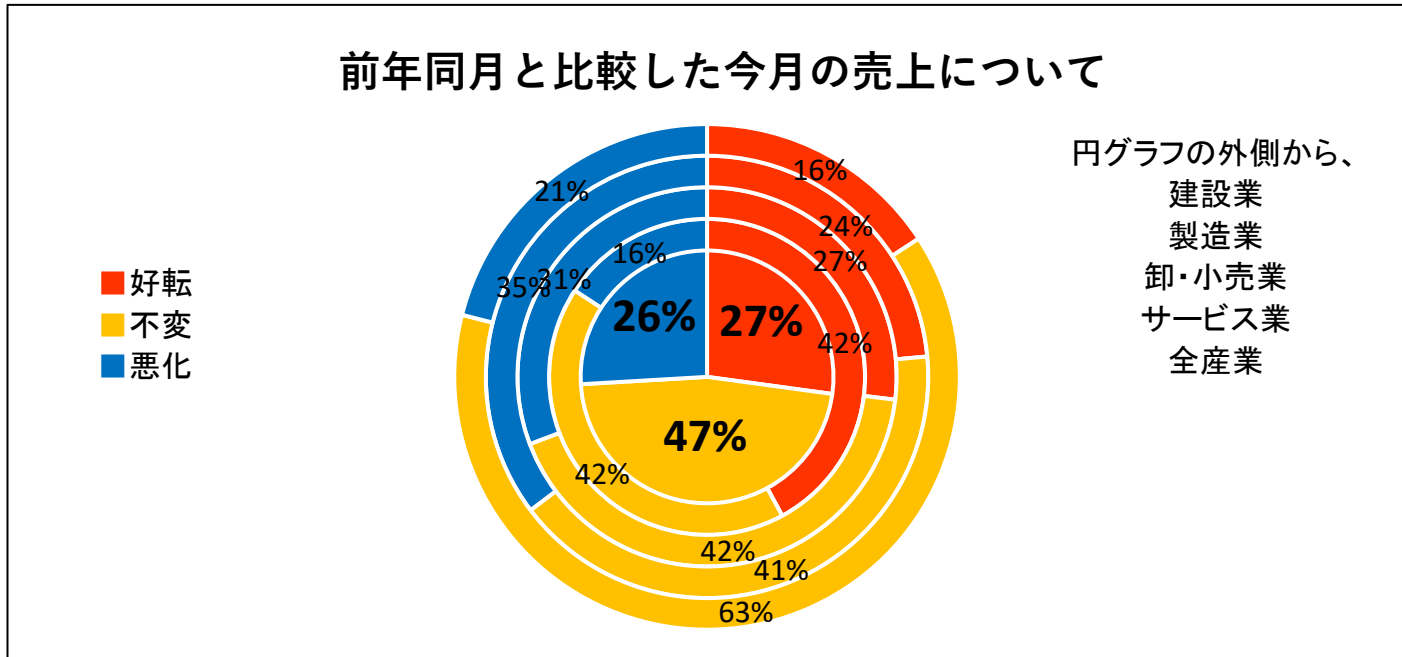
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月（11~1月）	
全産業	▲7.5	▲6.8	▲18.3	▲16.8	▲13.0	▲16.0	▲8.6	▲5.4
建設	▲10.0	▲30.4	▲11.1	▲20.0	▲14.2	▲21.0	▲10.5	▲4.7
製造	▲21.7	±0.0	▲10.5	▲19.0	±0.0	▲23.5	▲17.6	▲19.0
卸・小売	▲20.0	▲6.4	▲16.6	▲23.3	▲30.0	▲19.2	▲7.6	▲3.3
サービス	△30.0	△13.3	△10.0	▲4.1	±0.0	±0.0	±0.0	△5.0



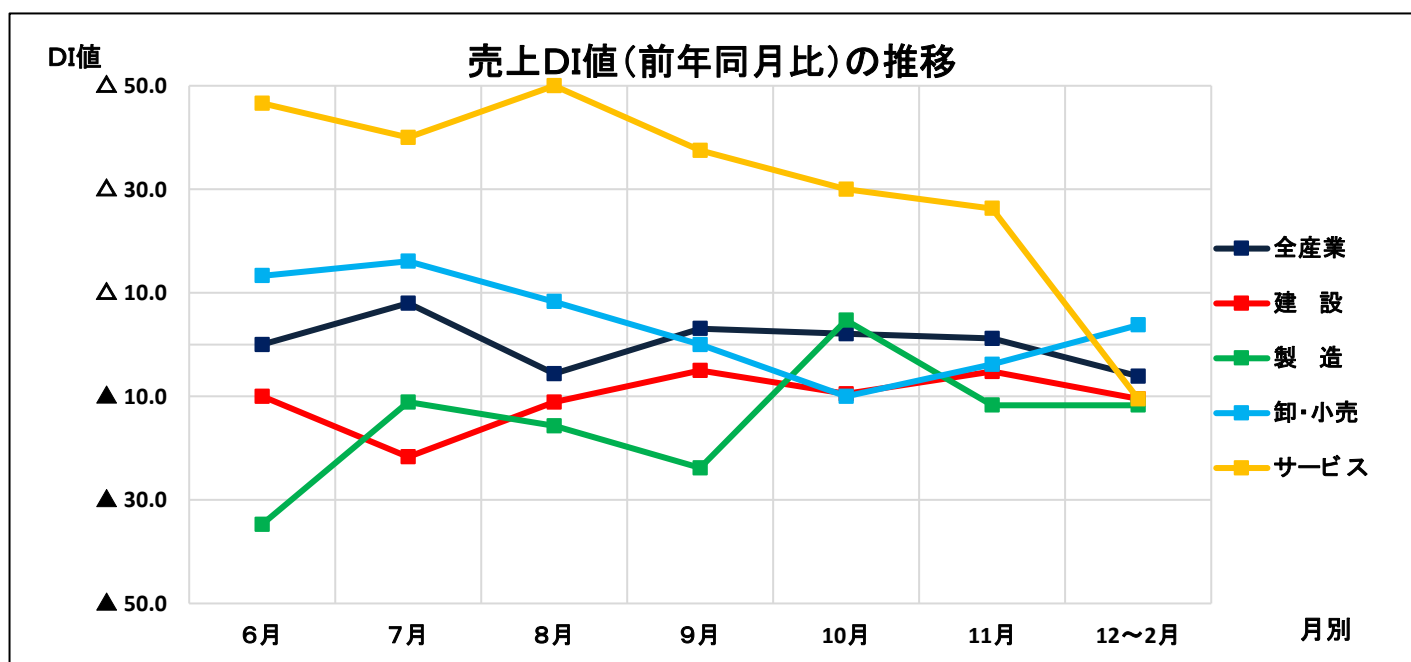
【売上について】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.2(前月水準△2.1)となり、プラス幅が0.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.1(前月水準△3.2)となり、マイナス幅が9.3ポイント拡大した。



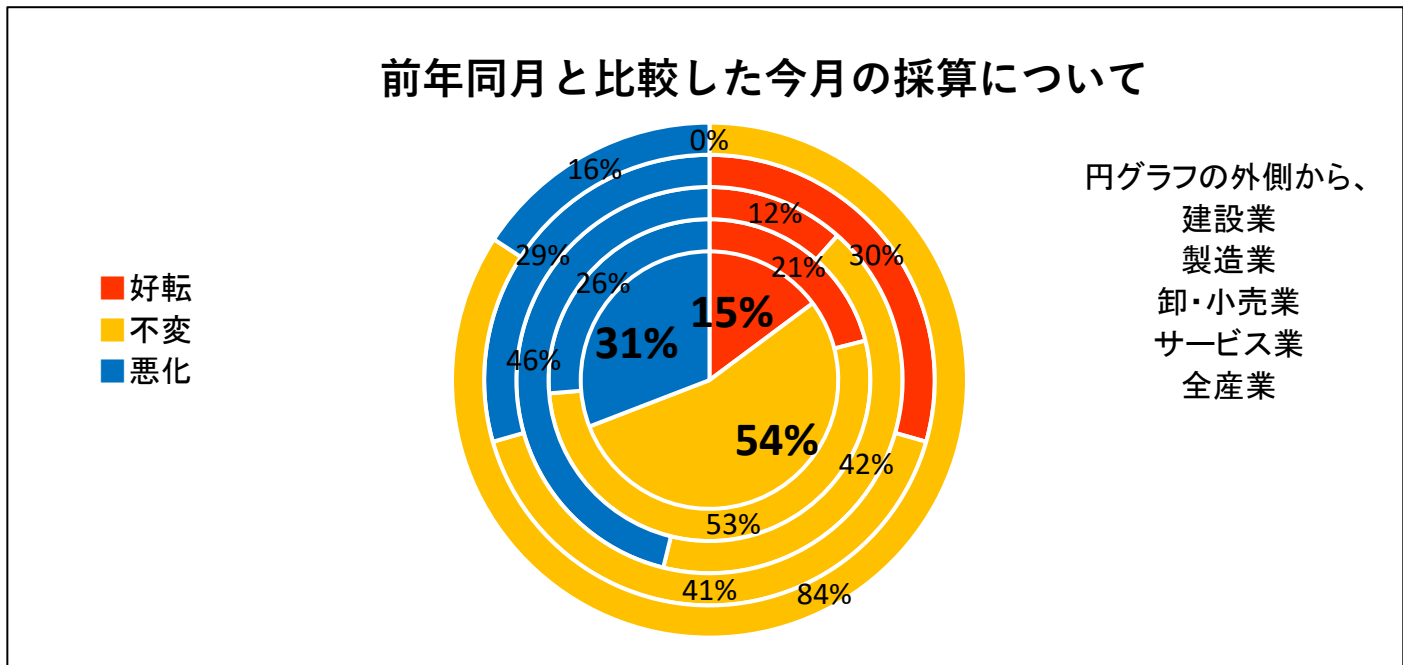
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和5年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)	
全産業	±0.0	△8.0	▲5.6	△3.1	△2.1	△1.2	▲6.1	(△3.2)
建設	▲10.0	▲21.7	▲11.1	▲5.0	▲9.5	▲5.2	▲10.5	(△4.7)
製造	▲34.7	▲11.1	▲15.7	▲23.8	△4.7	▲11.7	▲11.7	(△4.7)
卸・小売	△13.3	△16.1	△8.3	±0.0	▲10.0	▲3.8	△3.8	(▲3.3)
サービス	△46.6	△40.0	△50.0	△37.5	△30.0	△26.3	▲10.5	(△10.0)



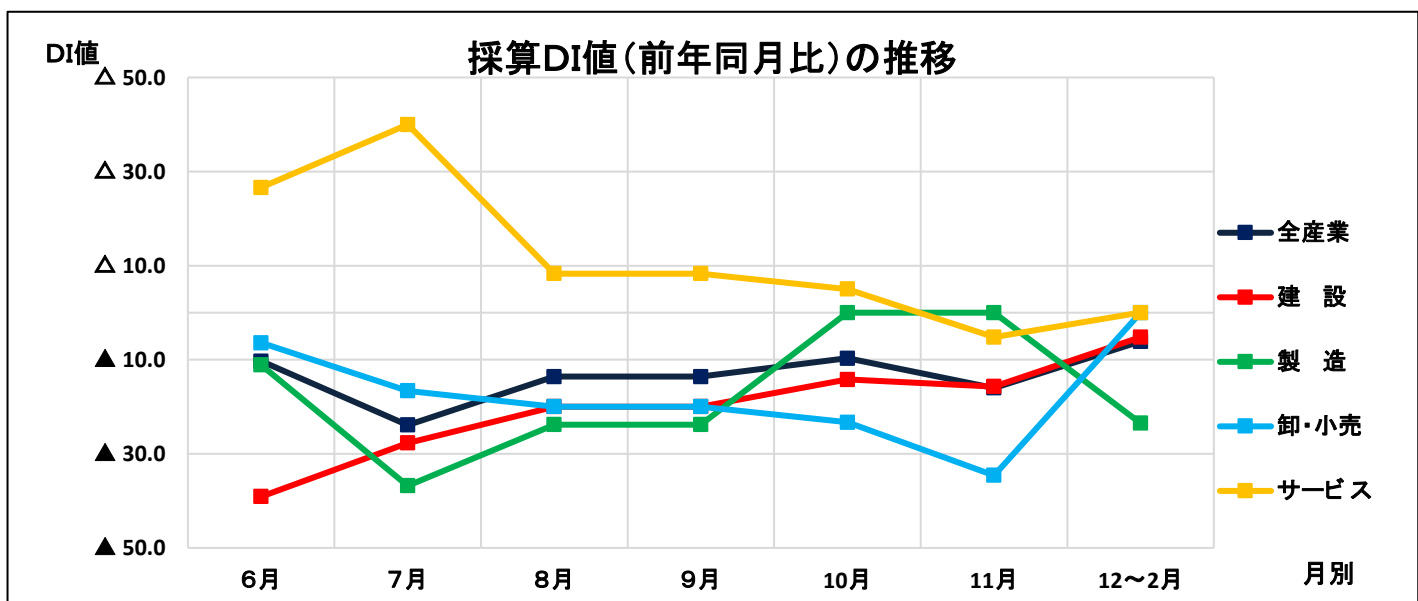
【採算について】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲9.7)となり、マイナス幅が6.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.1(前月水準▲1.0)であり、マイナス幅が5.1ポイント拡大する見通しである。



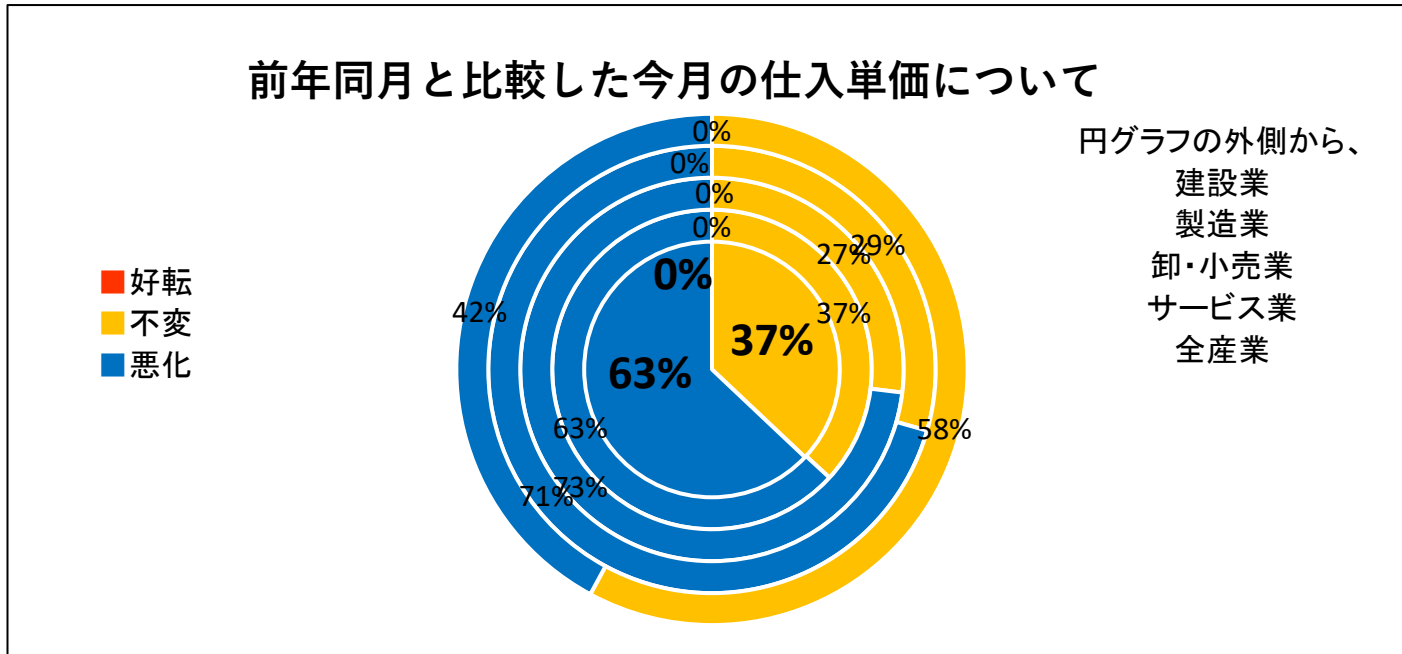
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)
全産業	▲10.3	▲23.9	▲13.6	▲13.6	▲9.7	▲16.0	▲6.1 (▲1.0)
建設	▲39.1	▲27.7	▲20.0	▲20.0	▲14.2	▲15.7	▲5.2 (▲4.7)
製造	▲11.1	▲36.8	▲23.8	▲23.8	±0.0	±0.0	▲23.5 (±0.0)
卸・小売	▲6.4	▲16.6	▲20.0	▲20.0	▲23.3	▲34.6	±0.0 (▲3.3)
サービス	△26.6	△40.0	△8.3	△8.3	△5.0	▲5.2	±0.0 (△5.0)



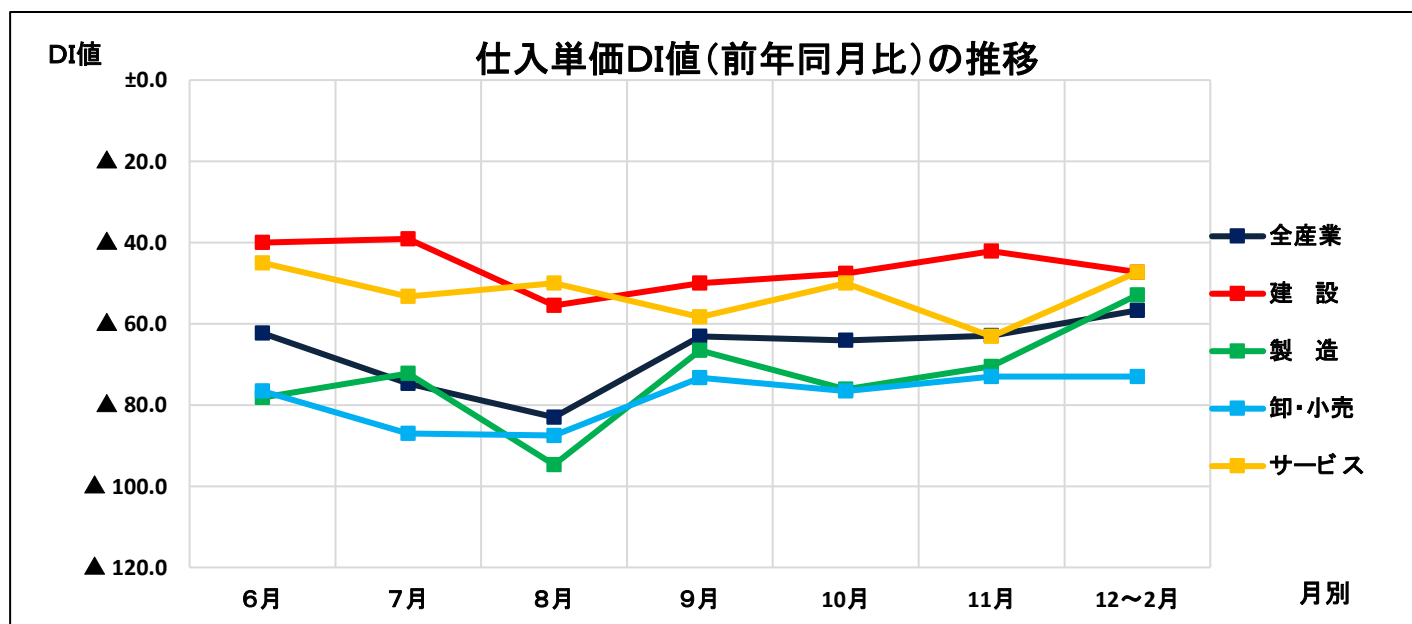
【仕入単価について】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.9(前月水準▲64.1)となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲56.7(前月水準▲53.2)となり、マイナス幅が3.5ポイント拡大する見通しである。



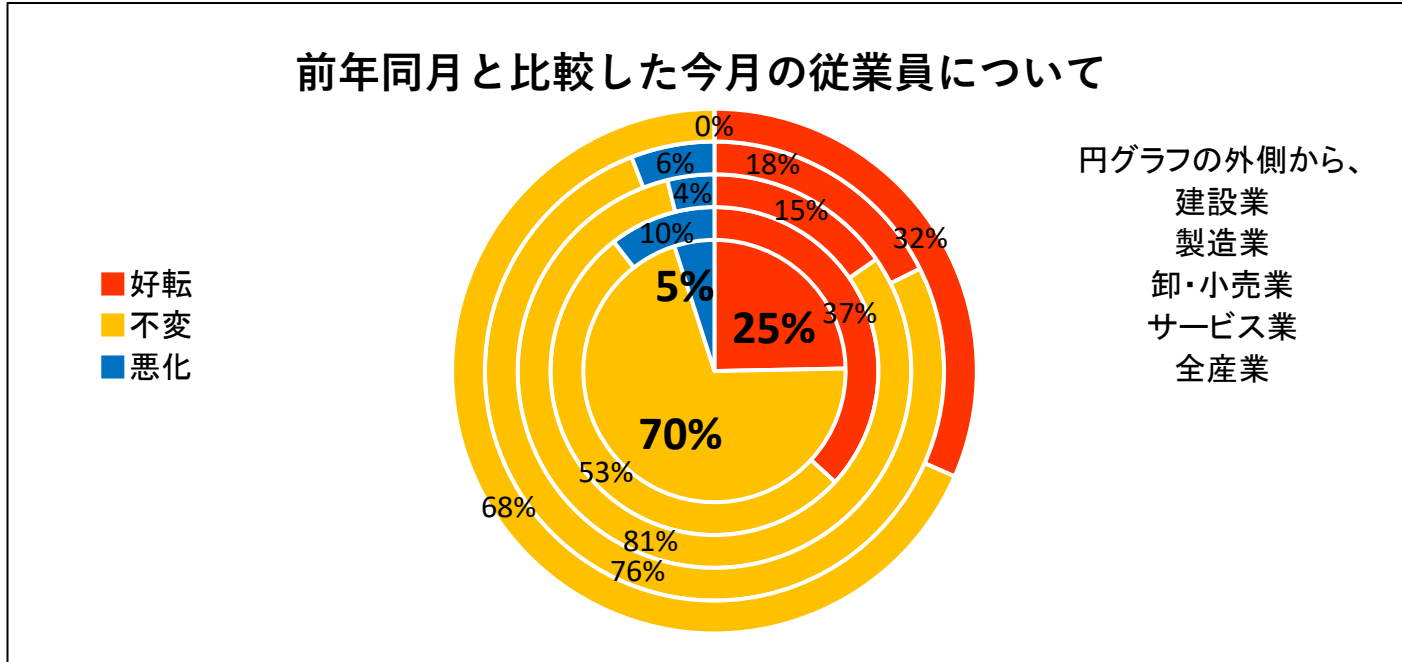
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和5年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月 (11~1月)
全産業	▲62.3	▲74.7	▲83.0	▲63.1	▲64.1	▲62.9	▲56.7 (▲53.2)
建設	▲40.0	▲39.1	▲55.5	▲50.0	▲47.6	▲42.1	▲47.3 (▲38.0)
製造	▲78.2	▲72.2	▲94.7	▲66.6	▲76.1	▲70.5	▲52.9 (▲61.9)
卸・小売	▲76.6	▲87.0	▲87.5	▲73.3	▲76.6	▲73.0	▲73.0 (▲60.0)
サービス	▲45.0	▲53.3	▲50.0	▲58.3	▲50.0	▲63.1	▲47.3 (▲50.0)



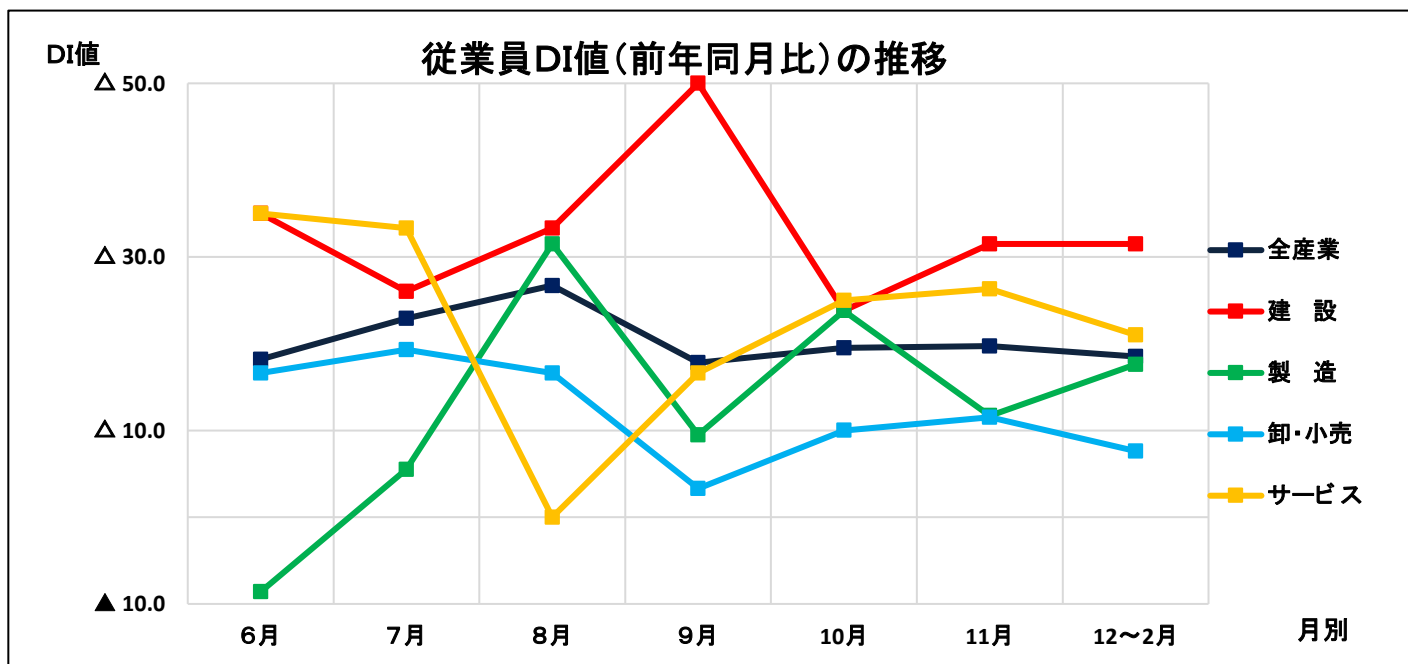
【従業員について】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△19.7(前月水準△19.5)となり、プラス幅が0.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.5(前月水準△20.6)となり、プラス幅が2.1ポイント縮小する見通しである。



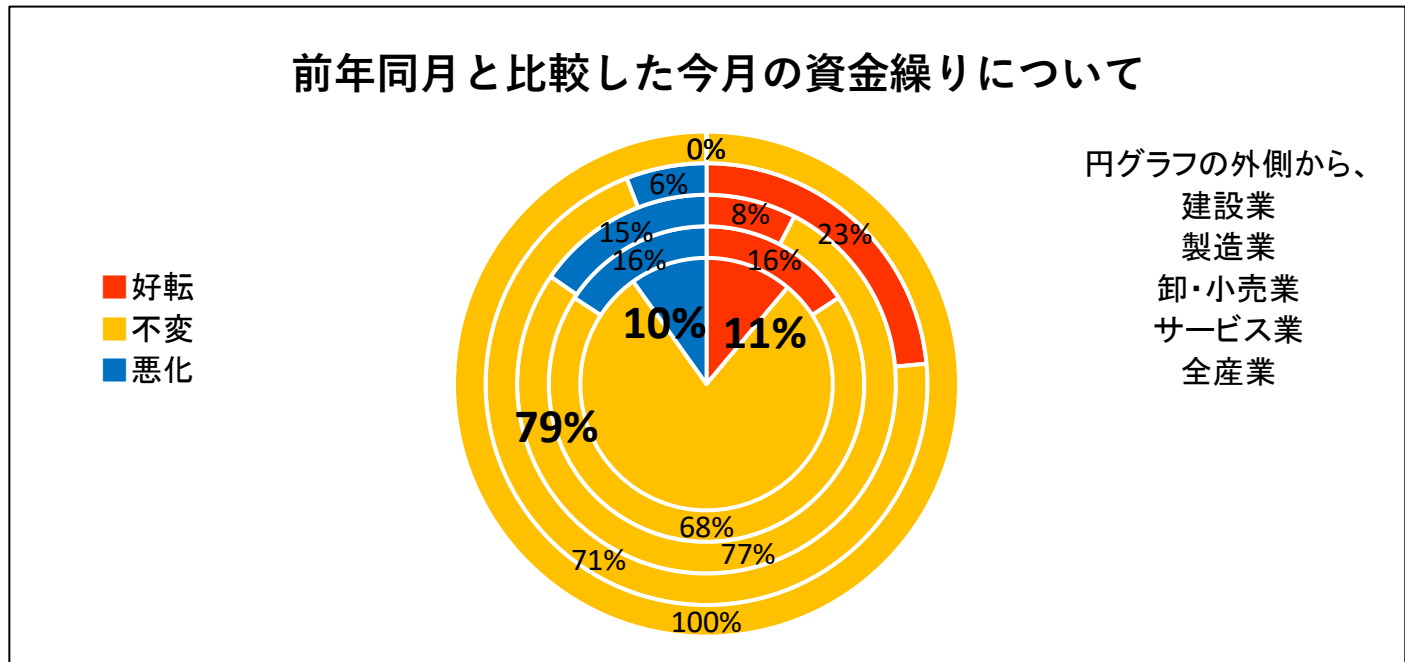
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)
全産業	△18.2	△22.9	△26.7	△17.8	△19.5	△19.7	△18.5 (△20.6)
建設	△35.0	△26.0	△33.3	△50.0	△23.8	△31.5	△31.5 (△23.8)
製造	▲8.6	△5.5	△31.5	△9.5	△23.8	△11.7	△17.6 (△23.8)
卸・小売	△16.6	△19.3	△16.6	△3.3	△10.0	△11.5	△7.6 (△16.6)
サービス	△35.0	△33.3	±0.0	△16.6	△25.0	△26.3	△21.0 (△20.0)



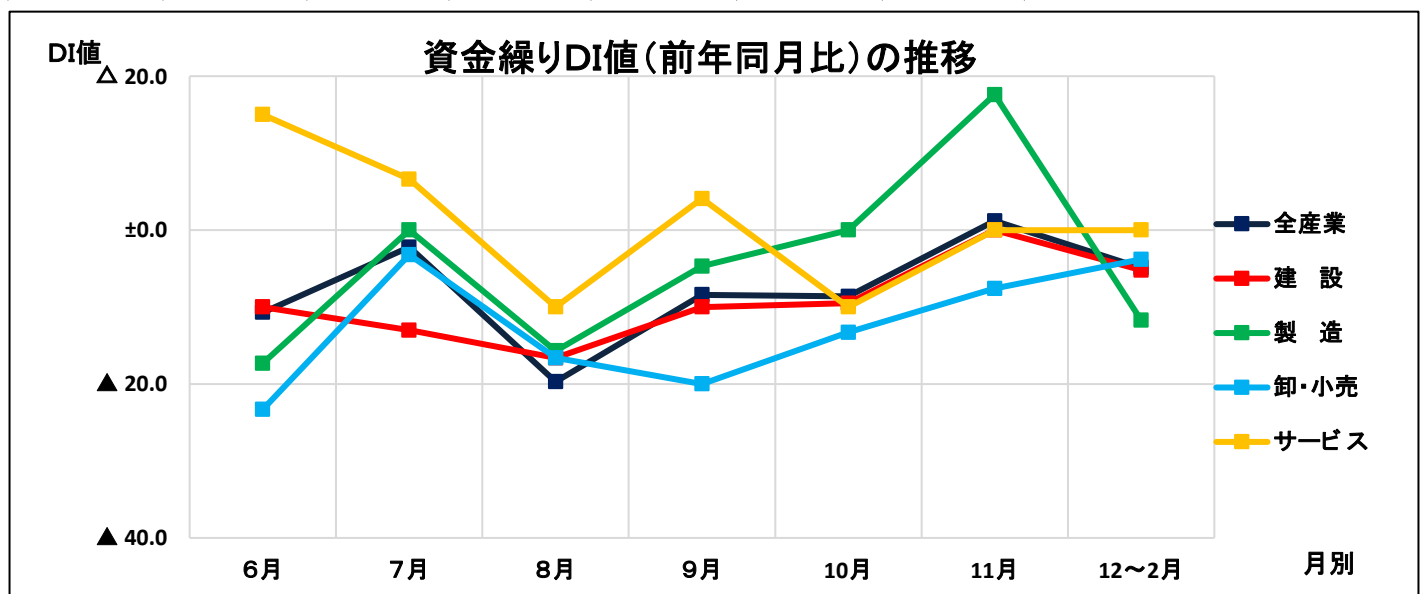
【資金繰りについて】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.2(前月水準▲8.6)となり、プラス幅が9.8ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.9(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)
全産業	▲10.7	▲2.2	▲19.7	▲8.4	▲8.6	△1.2	▲4.9 (▲6.5)
建設	▲10.0	▲13.0	▲16.6	▲10.0	▲9.5	±0.0	▲5.2 (▲4.7)
製造	▲17.3	±0.0	▲15.7	▲4.7	±0.0	△17.6	▲11.7 (▲14.2)
卸・小売	▲23.3	▲3.2	▲16.6	▲20.0	▲13.3	▲7.6	▲3.8 (▲6.6)
サービス	△15.0	△6.6	▲10.0	△4.1	▲10.0	±0.0	±0.0 (±0.0)

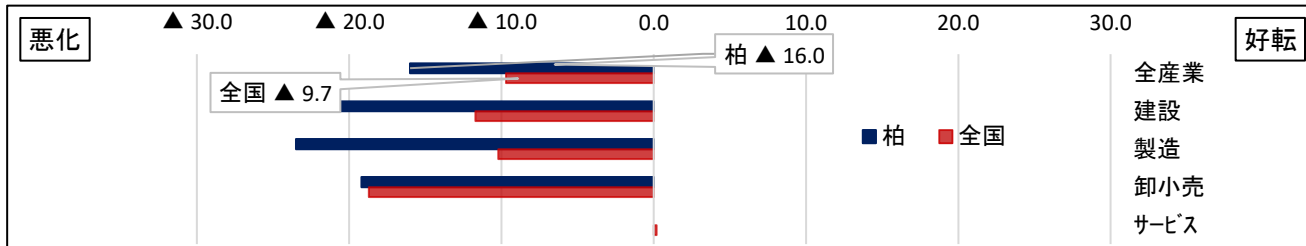


全国（CCI-LOBO）との比較

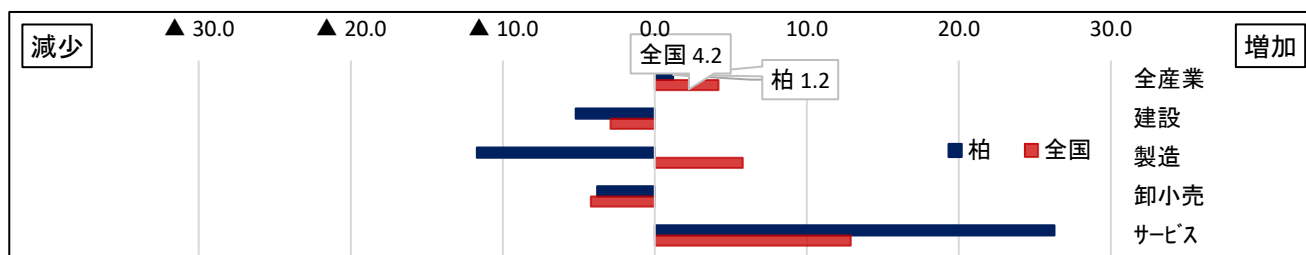
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

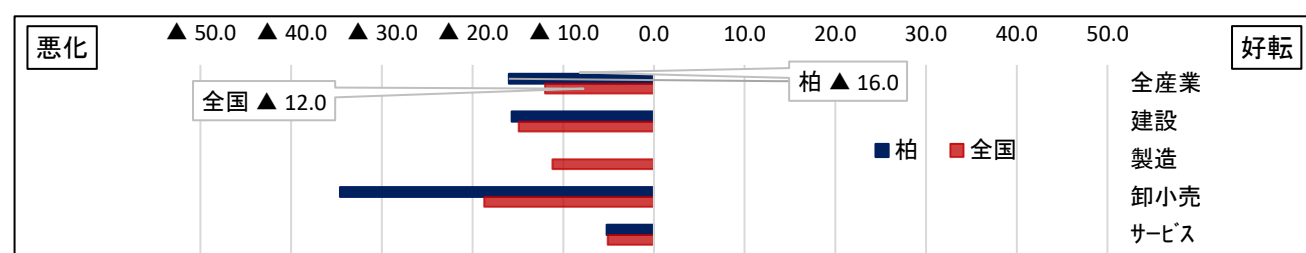
【業況D I】



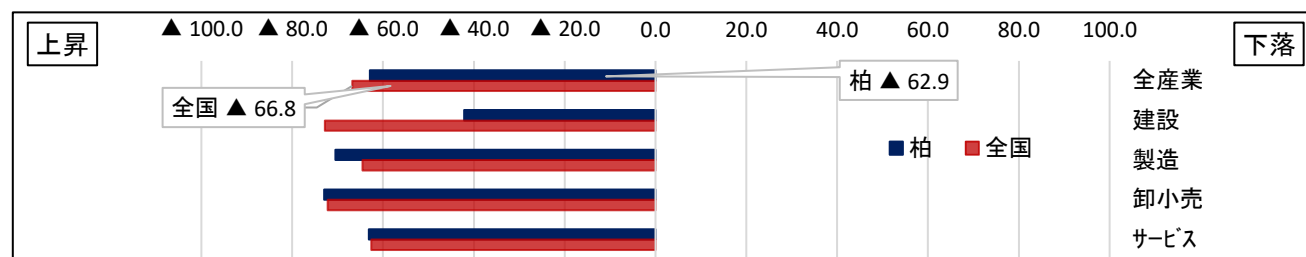
【売上D I】



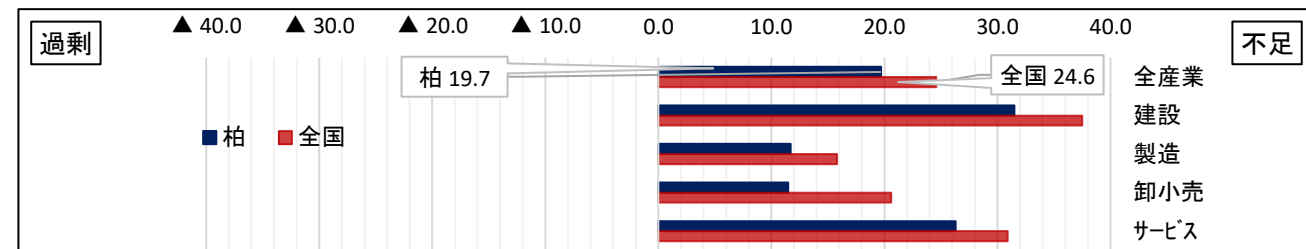
【採算D I】



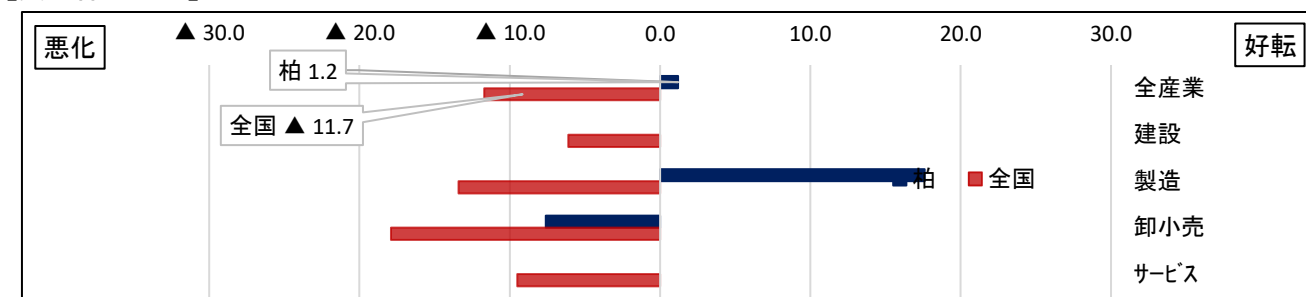
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	仕入やエネルギー価格の高騰、最低賃金のアップに対して、値上げ交渉中にも既にその価格では難しくなっている	土木工事業
	お正月を新しい豊で迎えたいという一般のお客様の注文増加。	豊工事請負・豊製造販売業
	資材価格の高騰で住宅の着工が弱い	建築工事業
	大手企業は人手不足に対して賃上げなどで対策しているが、中小企業では中途・新卒採用ともに厳しい状況	電気工事業
製造業	インボイス対応で紙領収書保存をするために時間を労している。紙資源を削減することを社内環境目標としているのに逆行している	金属製品
	円安で化粧品容器の国内生産回帰の話が具現化すればかなりのボリュームで仕事が増えるが確かな手ごたえはまだない	プラスチック加工
	一時期の値上げラッシュは落ち着くけいこうにあるもののエネルギー原材料等が高止まりしており値上圧力は続くと思われる。	その他の機械・同部品製造業
	7月、8月、9月の荷動きは、物価高の影響か、非常に悪かった。10月、11月は、多少の回復傾向を感じた。12月以降は、まだわからない。	その他の化学工業
	エネルギー等のコスト増に伴う一部価格転嫁で利益を確保 社内での工場経費削減も実施 生産性向上に伴う設備投資はコスト増でも必須で継続	その他の鉄鋼業
	小企業においては継続できるか否かの瀬戸際に来ている。大企業を中心とした政策に巻き込まれ、切り替えが難しい	印刷業
	未だに原材料費や仕入れ商材の値上げが続いている。すぐに価格転嫁出来るものは良いが、既に一度値上げした商材や自社製品等は値上げが難しい	自動車付属品製造業
卸 ・ 小売業	気温が下がり、鍋料理用の野菜の需要が増加している	飲食料品小売業
	仕入値・売値どちらも高止まり。年末商戦に期待	その他の各種商品小売業
	アパレルは前半気温が高く防寒を中心に苦戦するも、後半は気温の低下と会員向けセールが寄与し回復傾向。食物販・サービス関連は好調継続	百貨店
	販売価格を上げると一層の顧客離れにつながってしまうため、踏み切ることが出来ず悩ましい	食料卸売業
サ ー ビ ス	人手不足が深刻となってる、(ただ、だれでもよいと限らず) 悩みどころ	ソフトウェア業
	大学入試の約半分が推薦入試で決まってしまう、高3生が10月末で大半が退会してしまうため、冬期講習を含めた1月までの売上の落ち込みが心配	学習塾

【業種別】 業界内トピックス

ビ ス 業	原材料費の高騰、時給の上昇による経営圧迫が続いている	日本料理
	三郷流山新渡線橋が開通し、新三郷エリア商業施設も格段に近くになった。 周辺道路が今後整備されるにつれて、車や人の流れも変わりそう。	不動産賃貸・管理業
	振り子現象で商況は急激に悪化し12月までは我慢、年明けに期待したい。 海外旅行は徐々にではあるが、復活の兆しを感じられる	旅行

調査要領

回答期間

令和5年11月27日 ~ 令和5年12月5日

調査対象

柏市内175事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	175	81	46.3%
建設	43	19	44.2%
製造	41	17	41.5%
卸・小売	45	26	57.8%
サービス	46	19	41.3%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				